

平成27年度 維持管理状況(4月1日～30日)

<工場設置計器の測定結果>

清掃工場名等	焼却能力 t/日	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度(煙突) (O2 12%換算)	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
				t	℃	℃	ppm	
光が丘	300	1号炉	可 燃 ご み	3,406.85	827～1,025	157～161	1～21	ボイラ設備の除じんはボイラストロブワ又はボイラ植打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		3,489.40	856～1,052	156～159	1～28	
目黒	600	1号炉		7,133.18	951～1,090	159～161	0～5	
		2号炉		6,705.41	922～1,028	159～160	0～11	
有明	400	1号炉		455.93	1,006～1,105	174～176	3～64	
		2号炉		5,850.41	1,053～1,219	174～177	0～54	
千歳	600	1号炉		1,562.91	910～1,075	159～163	6～15	
江戸川	600	1号炉		600.39	901～970	170～171	0	
		2号炉		8,177.00	885～1,005	170～171	0～7	
墨田	600	1号炉		2,395.37	1,023～1,122	169～170	0～1	
北	600	1号炉		17,107.19	1,064～1,266	156～173	4～54	
新江東	1,800	1号炉		13,015.13	953～1,180	167～172	0～52	
		2号炉		15,805.24	879～1,157	167～172	0～39	
		3号炉		17,225.37	965～1,153	166～172	0～13	
港	900	1号炉		8,473.97	961～1,180	166～168	3～43	
		2号炉		8,634.26	996～1,214	167～169	2～30	
		3号炉		8,445.29	969～1,204	166～168	2～36	
豊島	400	1号炉		584.60	853～916	167～168	5～47	
		2号炉		5,429.84	860～917	166～168	3～51	
渋谷	200	1号炉		5,195.65	925*～1,072	144*～158*	0～40	
中央	600	1号炉	6,958.49	901～1,093	147～151	1～46		
		2号炉	4,849.68	940～1,098	148～153	0～12		
板橋	600	1号炉	7,277.30	964～1,156	159～166	0～19		
		2号炉	5,995.25	929～1,137	159～165	0～65		
多摩川	300	1号炉	3,368.05	878～1,029	155	0～1		
		2号炉	3,745.01	893～1,010	155	0～1		
足立	700	1号炉	6,797.58	930～1,088	171～174	0～13		
		2号炉	2,707.77	907～1,061	170～173	0～34		
品川	600	1号炉	7,363.25	882～1,026	158～167	0～54		
		2号炉	7,612.99	871～1,031	158～163	0～34		
葛飾	500	1号炉	6,714.25	937～1,077	158～167	3～59		
		2号炉	6,796.31	929～1,030	159～161	4～37		
世田谷	300	1号炉	休炉中					
		2号炉	定期点検補修					
大田	600	1号炉	5,065.34	863～1,002	150～166	3～21		
		2号炉	7,250.38	864～1,003	152～166	6～22		
破碎ごみ処理施設	180	1号炉	3,654.88	824～949	133～162	0～117* ^①		

- * 渋谷清掃工場1号炉の燃焼室ガス温度及び集じん器入口ガス温度に誤りがあったため訂正しました。(平成27年8月27日)

測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(*)

平成27年度 維持管理状況(4月1日～30日)＜工場設置計器の測定結果＞より

① 破碎ごみ処理施設 1号炉 4月16日(木) 16:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で117ppmを記録した。

原因は、燃焼調整のため押し込み空気ダンパの手動操作を行っていたが、一時的に不完全燃焼状態となり、酸素濃度12%換算値が上昇したことによる。

直ちに、燃焼空気量及びごみ供給量の調整を行い燃焼改善を図った。

その結果、維持管理計画値以下の正常な燃焼状態に回復した。